

令和6年12月27日

充電中の非純正バッテリーから出火した事例

1 火災概要

執務中の会社員 A が焦げくさい臭いを感じ、外に出て確認すると急速充電器付近が燃えているのを発見した。会社員 B は、1階休憩室入口付近の消火器2本で消し止めた。

2 原因概要

急速充電器で充電中のバッテリーが内部短絡し、過熱、揮発した電解液に着火したものの。内部短絡の発生原因は不明。

火災となった非純正バッテリーは、ネット通販で購入され、純正品と比較してかなり割安で販売されていた。購入履歴から海外製であることは確認できたが、製造、販売元は現状では実態がなく、製品に関する情報が得られなかったため、詳細な原因の特定には至らなかった。

3 教訓

非純正バッテリーの中には、安全対策や品質管理が不十分で事故のリスクが高いものがあります。また、事故発生後に事業者の補償を受けられない、事業者と連絡が取れないなどの事態も多く発生しています。

非純正バッテリーは、純正品に比べて“低価格”のものも多いですが、これらの中には“高リスク”のものが潜んでいることを認識しなければなりません。



▲充電中に出火した急速充電器と非純正バッテリー



▲焼損した非純正バッテリーを分解し、バッテリーセルを撮影したもの

担当：予防課

連絡先：0226-22-6693